四ツ谷のレイヤー
～谷底の駅の提案～

concept

四ッ谷のレイヤーを再構する

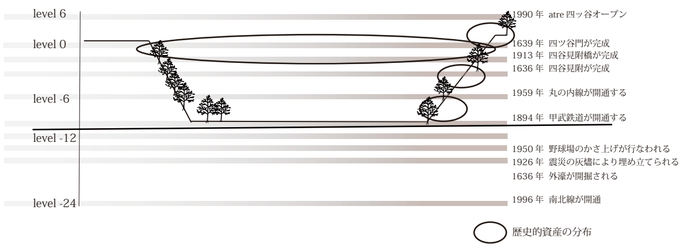
四ッ谷には様々な歴史や出来事が何層にも重なっている。

歴史の中に存在する駅機能を再編することで都心の中の駅機能を改善し
その地のアイデンティティを継承していく
その中で以下の３つのコンセプトを掲げる

①外濠及び四ッ谷の地形、緑、歴史を現代的に復元する

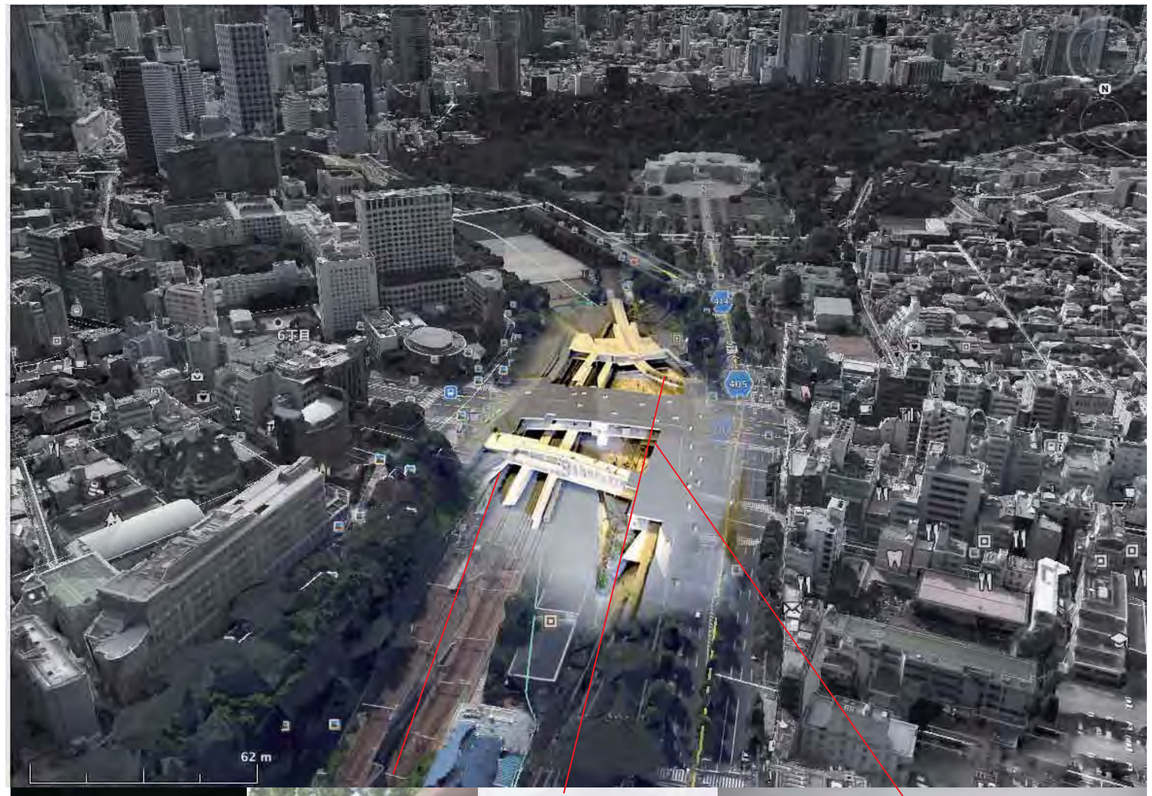
②都心駅にふさわしい移動空間に再編する

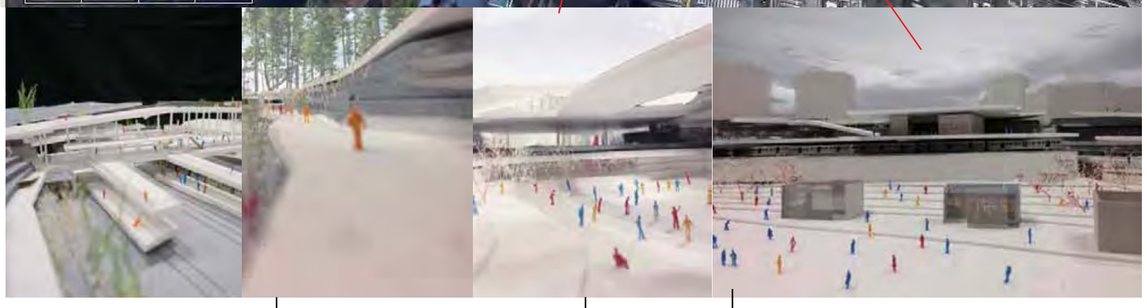
③周辺の動線を導き歴史的な遺構を見える化する



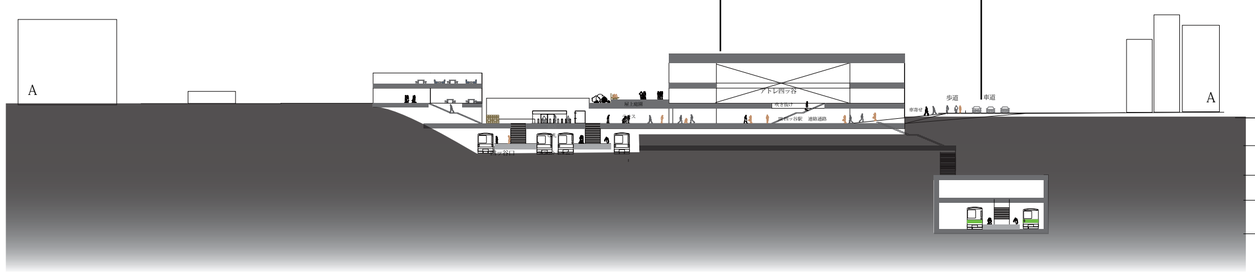
site

所在地；東京都新宿区四谷一丁目
乗降者数；JR 東日本 89,295 人
東京メトロ　丸ノ内線　32,332 人
東京メトロ　南北線　19,605 人
乗り入れ路線；東日本旅客鉄道；中央線快速電車，中央･総武線各駅停車
東京メトロ；南北線、丸ノ内線
駅構造；ＪＲ東日本　四ツ谷駅舎　地上駅、橋上駅舎
東京メトロ　四ツ谷駅舎　高架駅（丸ノ内線）、地下駅（南北線）

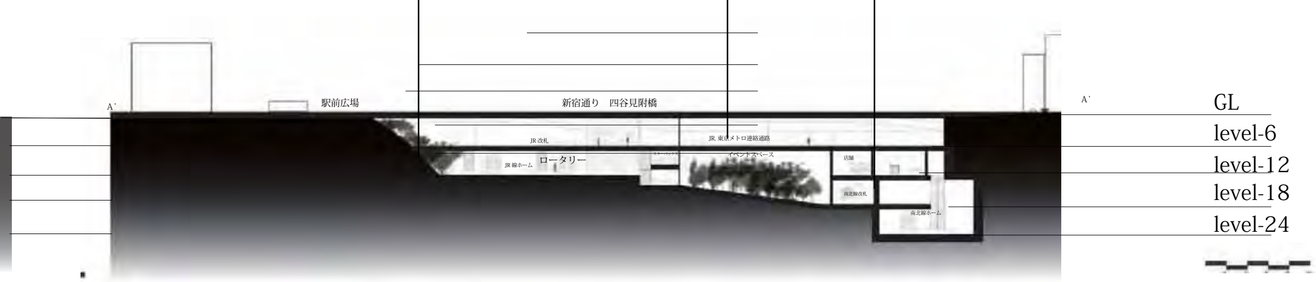




既存 A-A' section

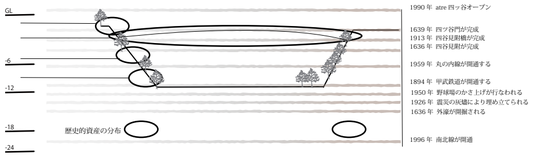


A-A' section

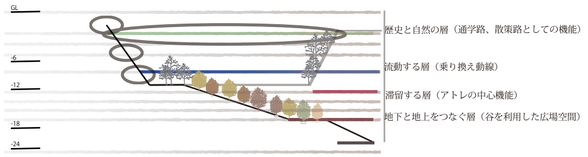


diagram

歴史のレイヤーと歴史的資産の分布

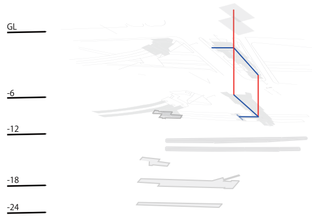


各レイヤーの要素と役割

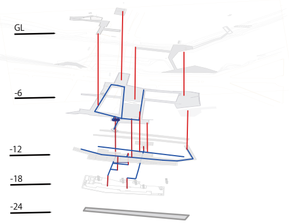


動線計画

アトレ、広場の利用者動線

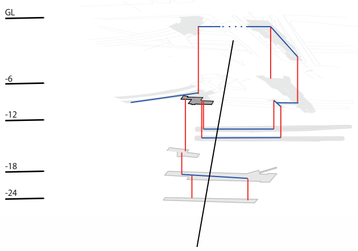


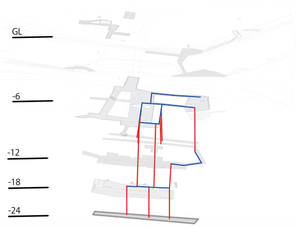
垂直方向のみの動線で完結している



アトレを地下で再編することで動線を下へ横へと広げていく

乗り換え動線





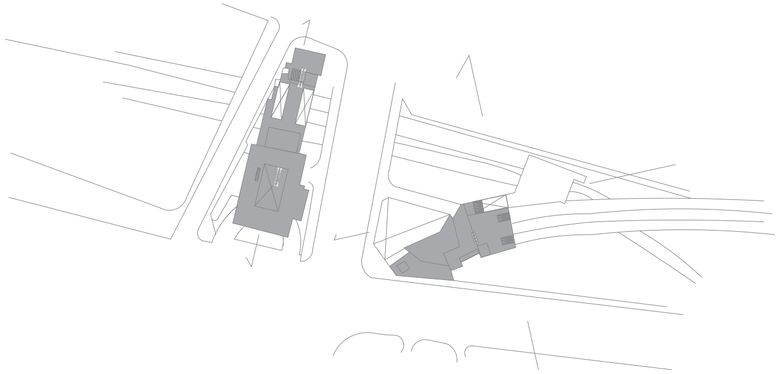
一度 GL にて横断歩道を渡る必要のある個所

動線を GL 以下にまとめることでコンパクトな動線に再編する

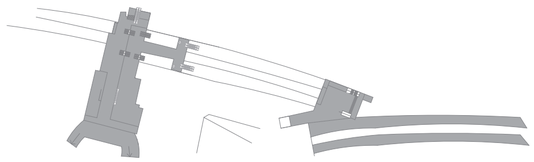
垂直方向動線

水平方向動線

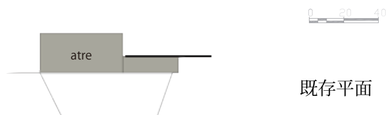
Plan



既存平面　Plan GL



設計プロセス



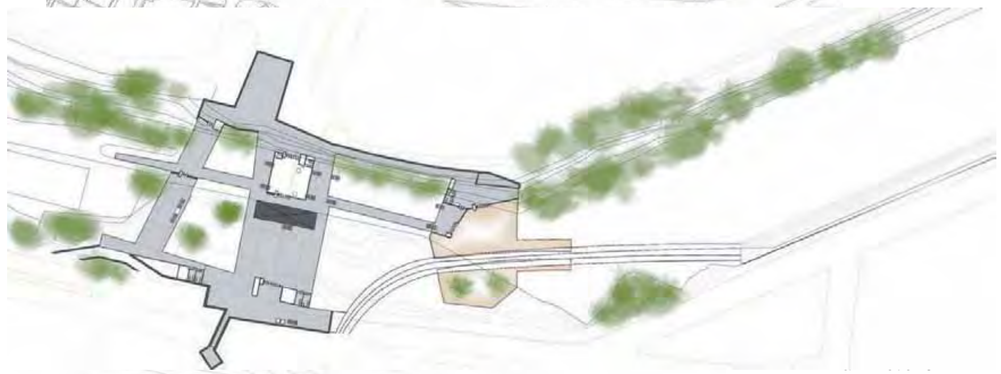
既存平面　Plan -6

現在のアトレの状況

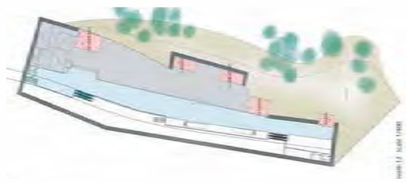
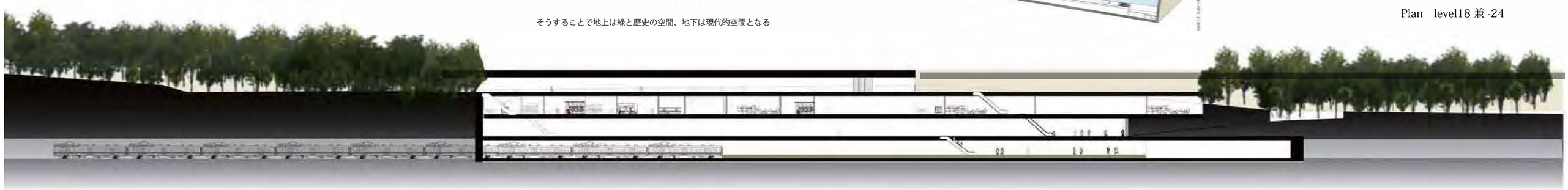
外濠の景観を分断しているアトレを地下に再編する

そうすることで地上は緑と歴史の空間、地下は現代的空間となる

Plan GL



Plan　level-12



Plan　level18 兼 -24